

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

史学専攻 西洋史学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

史学専攻西洋史学分野では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、修士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、修士（史学）の学位を与える。

1. 西洋史学研究の分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、英語の他、西洋史学の各専門分野で必要とされる外国語および古典語を使用して専門的な研究を展開し、その成果を日本語さらには英語等で発表できる。
2. 西洋史学研究、あるいは関連分野の研究を内容として日本語もしくは英語等専攻が認める外国語で修士論文を執筆して審査に合格し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域について包括的で深い専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる。
3. 英語をはじめとして西洋史学の各専門分野で必要とされる外国語を通じて西洋世界をはじめとして異文化の歴史的、文化的特性を理解し、他者と交流を持ち、重要な問題を認識し、それを解決していくための議論や実践に資する研究能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた社会人、研究者、教育者として国際社会に貢献できる。

【カリキュラム・ポリシー】

史学専攻西洋史学分野では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 西洋史学の各専門分野を対象とした講義演習科目群を設置し、各専門分野で必要とされる外国語および古典語の能力を高めつつ、研究を展開するために必要な専門知識、専門的研究方法論、一次史料分析能力、思考力および議論構成力を養成する。
2. 修士論文の執筆を可能とするため、指定された指導教員が中心となって個別論文指導を行い、研究テーマについての知識を深めるとともに、高度な研究能力および論述力を養う。
3. 異なる環境を通じて高度な異文化リテラシーを身につけるために、文学研究科や慶應義塾大学国際センターによって提供される留学プログラム、さらには学内外の各

種留学制度などを活用した海外の大学院への修士学位取得を目的とした長期留学、単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を推奨する。

【アドミッション・ポリシー】

史学専攻西洋史学分野修士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、西洋史学の領域全般についての基礎知識を有している。
2. 大学院において、何をどのような方法で研究したいのかという研究計画について自ら考え、まとめることができる。
3. 自己の研究テーマに関係する一次史料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な外国語や古典語の能力を有しており、分析的な読解、学術的議論を展開できる。
4. 少なくとも研究資料を講読するための基礎的な第2外国語の能力を有している。
5. 修士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的に考えている。